

土木会会報

Vol.18

2021. 8



防衛大学校土木会



巻 頭 言

～ 「土木」の魅力 ～

会 長 鵜居 正行

防衛大学校土木会会員の皆様方に於かれましては、益々ご健勝、ご活躍のこととお慶びを申し上げます。この度会長を拝命しました本科31期、研究科30期の鵜居です。長年にわたり継続され今や2000名を超える会員を擁する、本会の会長職を山崎統合幕僚長より引き継ぐことになり、重責に身の引き締まる思いであります。倍旧のご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

さて、私は任官後「施設科」職種に指定された関係から、自衛官生活の多くの期間、「土木」と関係する業務に従事してまいりました。その中で、戦後の復興を支えた部外土木工事、発展途上国の国造りを支えた国際平和協力活動や能力構築支援等の現場において、防大土木工学出身の自衛官が活躍する姿を目の当たりにしてまいりました。更には、昨今の自然災害の猛威に対しては、「土木」技術の必要性の更なる増大を痛感しています。

サイバー、電磁波、宇宙といった新たな領域が注目されている時代にあっても、そこに住まう人々の生活を基盤として支え、安心安全を提供する「土木」の魅力を広く伝えることによって、多くの優秀な若者が「土木」を専攻してくれることを祈念しています。

最後に、昨年来の新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、未だ楽観できる状態にはありませんが、会員皆様のご家族共々のご健勝を心から祈念申し上げます。

(防衛装備庁長官官房装備官)

目 次

学科長挨拶（近況報告）	1
土木会ニュース	3
・学科の現況について	3
・建設環境工学科学学生の受賞・学位取得について	4
・近年の土砂災害	5
・防大土木アーカイブスの編纂について	7
事務局より	9
「防衛大学校土木会」の歩み	10
期別便り	13
決算報告（令和元年・2年度）	29
防衛大学校土木会会則	30
役員等名簿	33



近況報告

システム工学群 建設環境工学科
学科長 別府 万寿博

防衛大学校土木会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。皆様には平素より建設環境工学科の運営に関して格別のご支援を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

まず、突然のことで皆様驚かれたことと存じますが、令和2年8月に加藤清志先生が、令和3年7月には佐藤紘志先生がご逝去されました。ここに謹んでお知らせするとともに、先生方のご冥福をお祈り申し上げます。

さて、学科として嬉しいご報告がございます。令和2年度に山口晴幸先生が、令和3年度には大野友則先生が、瑞宝中綬章をご受章されました。先生方の顕著なご功績は紹介するまでもありませんが、ここにあらためてお祝い申し上げます次第です。

建設環境工学科は、現在、八講座（構造力学、建設材料工学、設計工学、環境防災工学、国土環境工学、地盤工学、水工学、大規模震災工学）により教育・研究に当たっております。教官陣では、令和3年3月に矢代晴実教授（大規模震災工学）が退官されました。東日本大震災を契機として設置された大規模震災工学講座の初代教授として学科の発展に尽くされた矢代先生のご貢献に深甚なる謝意を表します。先生が蒔かれた新しい種がやがて大きく芽吹き、自衛隊を支えることを確信しております。一方で、新しい先生を本学科にお迎えすることができました。令和2年4月に佐野博昭先生が大分工業高等専門学校より教授（国土環境工学）として、令和3年4月に山本阿子先生が森林総合研究所より助教（水工学）として、それぞれ着任されております。また、令和2年10月に多田毅先生が教授へ、宮本慎太郎先生が講師へ昇任されました。先生方の今後のご活躍を祈念しております。

現在の教官布陣は表のようになっており、本科：四学年32名（内タイ王国1名、東チモール1名、ラオス1名）、三学年33名（内カンボジア1名、ラオス1名、タイ王国2名、東チモール1名、ベトナム1名）、二学年31名（内カンボジア2名、モンゴル国1名、タイ王国1名、ラオス1名）の合計96名、および理工学研究科：前期（修士）8名（内タイ王国1名）、後期（博士）4名の合計12名の教育・研究に当たっております。

学科の活動では、学生教育と研究とをうまく連携させて進めることが極めて

重要です。そのためには、理工学研究科の学生数を一定数確保する必要があると考えています。この点に関して、皆様のさらなるご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

今後も建設環境工学科の教育・研究内容をより充実したものにしていきたいと考えておりますので、土木会会員の皆様方の変わらずのご指導、ご支援とご協力を頂きますと幸甚です。最後に、会員の皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。

建設環境工学科の教官配置

本科講座	構造力学	建設材料工学	設計工学	環境防災工学	国土環境工学	地盤工学	水工学	大規模震災工学
教授	香月	黒田	別府	藤掛	佐野	宮田	八木多田	
准教授	堀口		市野		篠田		鳴原	
講師					野々山	宮本		松崎
助教							山本	

令和三年八月吉日

学科の現況について

建設環境工学科では、前回の会報発刊以降多田毅先生が教授に、宮本慎太郎先生が講師に昇任されました。また、新しく令和2年から佐野博昭教授、令和3年から山本阿子助教が着任され、令和3年に矢代晴実教授が退官されました。建設環境工学科の教員の現況および学生の現況については、下記のとおりです。

1 建設環境工学科教員の現況

氏名および職位	専門分野（期別）	氏名および職位	専門分野（期別）
香月 智 教授	構造力学（23期）	篠田 昌弘 准教授	国土環境工学
藤掛 一典 教授	環境防災工学	嶋原 良典 准教授	水工学
宮田 喜壽 教授	地盤工学	市野 宏嘉 准教授	設計工学（46期）
八木 宏 教授	水工学	堀口 俊行 准教授	構造力学（50期）
別府万寿博 教授	設計工学（36期）	野々山栄人 講師	国土環境工学
黒田 一郎 教授	建設材料工学	松崎 裕 講師	大規模震災工学
佐野 博昭 教授	国土環境工学（27期）	宮本慎太郎 講師	地盤工学
多田 毅 教授	水工学	山本 阿子 助教	水工学

2 建設環境工学科学生の現況

(1) 本科

第4学年（66期）	32名（陸27、海3、空2）
第3学年（67期）	33名（陸26、海3、空4）
第2学年（68期）	31名（陸26、海3、空2）

(2) 研究科

後期課程	第3学年（19期）	2名（陸1、空1）
	第2学年（20期）	1名（陸1）
	第1学年（21期）	1名（民間1）
前期課程	第2学年（59期）	2名（陸1、留学生1）
	第1学年（60期）	6名（陸4、海1、空1）

建設環境工学科学生の受賞・学位取得について

1 学会等における受賞

令和元年12月から令和3年8月までに、6件の論文や研究発表が表彰されました。特に毎年3月に開催される土木学会関東支部研究発表会には、研究科学生だけでなく本科学生も積極的に参加しており、一般大学の学生や企業の方々と同じ会場で1年間の研究成果を発表しております。その中で令和2年度（第48回）においては本科65期の樋笠誠智氏、安河内良典氏、小嶋暁氏及び理工学研究科後期課程第19期の濱田匠李氏が優秀発表者賞を受賞しました。

2 学位の状況

令和2年3月には、研究科後期課程第17期の片岡新之介氏（本科第56期）が卒業し、研究科後期課程設立後、防衛大学校建設環境工学（旧：土木工学）科から輩出した博士学位取得者は合計14名となりました。また、現在国内大学研修生として、横浜国立大学に博士課程学生の喜納啓氏（本科第58期）が在学しています。

本科・研究科学生の受賞（令和元年12月～令和3年8月現在）

受賞者	受賞内容	研究題目	受賞時期
前期課程 清田 翔吾	令和2年度土木学会全国大会 第75回年次学術講演会優秀論文賞	アラミド繊維シート補強による RC版の裏面剥離抑制効果に関する 解析的検討	H30.10
前期課程 福本 一真	第17回地盤工学会関東支部発表会 優秀発表者賞	性状改良—ジオグリッド補強併 用技術に関する実験的検討	H30.5
後期課程 濱田 匠李	第48回土木学会関東支部技術研究 発表会優秀発表者賞	平坦状の先端を有する飛来物衝 突を受ける鋼板の貫通破壊に関 する数値解析的研究	R3.3.3
本科 樋笠 誠智	第48回土木学会関東支部技術研究 発表会優秀発表者賞	被災道路網における啓開順序決 定法の研究	R3.3.3
本科 安河内 良典	第48回土木学会関東支部技術研究 発表会優秀発表者賞	柱状改良—ジオグリッド補強併 用型地盤の支持力に関する可視 化実験	R3.3.3
本科 小嶋 暁	第48回土木学会関東支部技術研究 発表会優秀発表者賞	津波による海岸林の土砂流出量 に関する実験的検討 その1：模 型林床の配置条件による影響	R3.3.3

近年の土砂災害

1 概要

近年、増加する豪雨によって土砂災害が頻発しています。記憶に新しいところでは本年、静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土石流、令和2年7月豪雨による熊本県人吉市および球磨村を中心とした球磨川の氾濫などが挙げられます。本学科でもいくつかの研究室では土砂災害の現地調査を行った例があり、研究の一部として紹介致します。

2 静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土石流

令和3年6月30日～7月3日まで降り続いた雨により、令和3年7月3日10時30分頃静岡県熱海市伊豆山^{あいぞめかわ}逢初川で土石流が発生しました。土石流発生時には降り始めからの連続雨量が400mm以上に達し、静岡県は7月8日の会見で逢初川の源頭部から約55,500m³の土砂が流出したと発表しました。現地調査は、令和3年7月6日に熱海市伊豆山源頭部および平野部で実施しました。



熱海市地図



源頭部



平野部被害状況と活動する自衛官



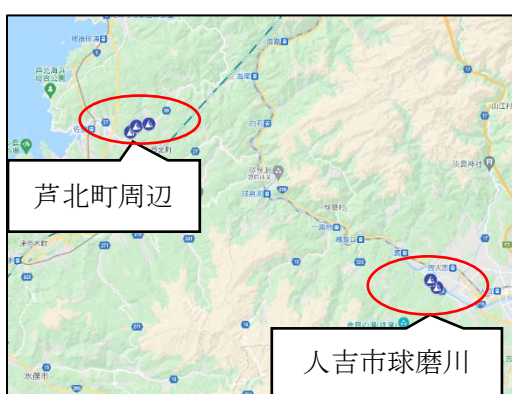
平野部残存した建物

3 令和2年7月豪雨による熊本県球磨川の氾濫

令和2年7月3日から7月末まで降り続いた雨により、九州全域で7月3日から14日までの総降水量が九州を中心に7月の月降水量平年値の3倍を超える地点や、年降水量平年値の半分以上となる地点がありました。

熊本県を流れる球磨川水系は、八代市、芦北町、球磨村、人吉市、相良村の計13箇所で氾濫・決壊し、約1060ヘクタールが浸水することとなり、甚大な被害を生じました。

現地調査は令和2年7月24日～7月25日の間、熊本県人吉市、芦北町を中心に実施しました。



熊本県地図



被災当時の球磨川の状況



芦北町斜面崩壊



芦北町閉塞された小河川

4 調査結果写真

以下のQRコードから本記事に掲載した以外に多数の写真をGoogle map上で確認いただけます。

(文責：嶋川理)



熱海市伊豆山地区



熊本県人吉市および芦北町

防大土木アーカイブスの編纂について

昭和28年(1953年)4月に、防衛大学校創立と同時に土木工学教室が設置されて70年近い年月が過ぎました。以降、本校における土木工学の専門課程は土木工学科、建設環境工学科と名称を変えながら今日に至っています。この間、学科では科学的な思考能力・判断力の涵養を目的とした教育が行われ、本科、研究科、各種研修あわせて約2,000名に上る方々が巣立っています。また、新規性と独自性を目指した研究も活発に行われ、学術の進展に寄与してきました。会員の皆様が残されたこのような成果を将来に伝えるため、別府万寿博学科長の提唱により、これまでの学科の記録として「防大土木アーカイブス」を編纂しましたので、その内容などをご報告させていただきます。

資料の収集にあたっては、防大50年史の内容を参考に、現在に至るまでの学科の組織の変化、教育および研究実績をまとめることを基本方針としました。その際、学科内に分散して保存されていた資料を収集するとともに、学科外の関係部署からも資料の提供を受けました。

資料の記録と編集にあたっては、デジタルデータに変換して記録することはもちろん、紙面での記録もこだわりました。冊子としてまとめられた記録を手にとることにより、歴史の重みを実感することができると思っています。



「防大土木アーカイブス」の外観（左：本編 右：別冊）

防大土木アーカイブスは1冊の本編と5冊の別冊から構成されています。収集した資料は、右下に示すように「組織編」、「教育編」および「研究編」に分類しました。

「組織編」には、学科設置以来の講座（研究室）の編制や教官の配置の変遷に関する資料を収めました。併せて退官された教授20名の抄歴も収録しました。

「教育編」には、各教育課程の毎年の卒業生数、カリキュラムの変遷に関する資料を収めました。開講科目や卒業所要単位数の推移から、時代の変化を読み取ることができます。また、全員の卒業研究テーマ、研修テーマを収録しました。これらのテーマは当時の社会の情勢をよく反映しており、興味深い資料になっていると思います。

「研究編」には、科学研究費研究課題を含む学内外での研究プロジェクトの実施状況を収めました。これらのプロジェクトに伴って各種の実験装置が整備されてきており、それらの写真も収録しました。

このように、防大土木アーカイブスには、本学科の約70年間の歩みがまとめられています。今回、記録の編纂をする中で、改めて会員の皆様のご尽力のうえに、現在の学科が成り立っていることを認識した次第です。

学科開設百周年を見据え、これからの歴史もスムーズに蓄積できるように、データベースの形式や冊子体の装丁を選択しました。防衛大学校にお越しの際は、ぜひ「防大土木アーカイブス」をご高覧いただき、学科在籍当時に思いをはせていただければと存じます。

(文責：市野宏嘉)

「防大土木アーカイブス」編纂チーム

宮田 喜壽 教授
鳴原 良典 准教授
市野 宏嘉 准教授
野々山栄人 講師
松崎 裕 講師
宮本慎太郎 講師

「防大土木アーカイブス」の概要

- 1 編纂にあたって
- 2 組織編
 - ・ 講座と教官配置の変遷
 - ・ 教官紹介
- 3 教育編
 - (1) 本科
 - ・ 年度別卒業人数
 - ・ カリキュラムの変遷
 - ・ 卒業研究テーマと指導教官
 - (2) 研究科
 - ・ 年度別卒業人数
 - ・ カリキュラムの変遷
 - ・ 卒業研究テーマと指導教官
 - (3) 研修
(技官研修生、大学院研修生など)
 - ・ 年度別修了人数
 - ・ 研究テーマと指導教官
- 4 研究編
 - ・ 研究プロジェクトの実施状況
 - ・ 実験装置の写真

事務局より

防衛大学校土木会会員の皆様には、日々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、防衛大学校土木会も、昭和 61 年に発足して以来、皆様の暖かいご支援とご協力により、第 18 号の会報を発刊するまでに至りました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年恒例となっておりました土木会総会・講演会および懇親会を 2 年続けて中止といたしました。来年度は状況が改善され、開催できることを期待しております。開催時期（例年 6 月中旬～下旬）が近づきましたら、ホームページ

(https://www.bodaidsk.com/community/tomo_kensetu/) 上でお知らせいたします。

本年度は、2 年 1 回の名簿発行の年でございます。発行は令和 3 年 12 月下旬を予定しております。32 期以降の方につきましては、10 月ごろに各期幹事の方々を通じ本年度 2 回目の名簿記載事項の調査をいたしますので、ご協力のほどお願い申し上げます。会員名簿の配布（有償）を希望される方につきましては、防衛大学校土木会事務局にお問い合わせください。なお、会員名簿は土木会会員の方に限っての配布とさせていただきます。

～ご寄付について～

前号の会報発行から、本号の発行までの間に次のとおりご寄付をいただきました。

期別	ご氏名	口数
36	別府 万寿博 様	2 口 (10,000 円)
48	角南 友希夫 様	1 口 (5,000 円)

深く御礼申し上げます。

なお、会の発足から今に至るまで、皆様から寄せられたご寄付は 1,061,635 円となりました。皆様のご厚志に心から感謝申し上げます。

今後も事務局員一同、土木会の一層の発展を目指して運営に努めたいと思います。変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。最後に、皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

事務局長 市野 宏嘉（46 期）

「防衛大学校土木会」の歩み

昭 61.12.6	第 1 回総会・懇親会開催/市ヶ谷会館（東京） 初代会長 東 俊（1 期）他役員選出 土木会会則の制定
昭 62.11.10	会員名簿第 1 号発行
昭 62.12.4	第 2 回総会・懇親会開催/市ヶ谷会館（東京）（参加者 71 名）
昭 63.12.2	第 3 回総会・懇親会開催/市ヶ谷会館（東京）（参加者 113 名） 第 2 代会長 中尾 時久（1 期）他役員選出 特別講演：志方俊之（2 期）ワシントンから見た日本の防衛
平 1.11.10	会員名簿第 2 号発行
平 1.12.15	第 4 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 83 名） 特別講演：隈元保雄（4 期）最近の中国事情とその背景
平 2.5.18	第 5 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 93 名） 特別講演：中谷 元（24 期、衆議院議員）最近の国内外情勢について
平 3.6.14	第 6 回総会・懇親会開催/虎ノ門パストラル（東京）（参加者 98 名） 第 3 代会長 坂本 良一（3 期）他役員選出 特別講演：鷹部屋 亮平 元教授（防大）防衛大学校の思い出
平 3.12	会員名簿第 3 号発行
平 4.6.12	第 7 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 97 名） 特別講演：鈴木 宏（砂防・地すべり技術センター専務理事） 雲仙・普賢岳災害と危機管理
平 5.6.12	第 8 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 95 名） 第 4 代会長 岸良 征（6 期）他役員選出 特別講演：渡辺 隆（21 期、第 1 次 PKO 施設大隊長） PKO 活動に参加して
平 5.12	会員名簿第 4 号発行
平 6.6.12	第 9 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 97 名） 特別講演：中溝 高好（防衛大学校副校長）これからの防衛大学校
平 7.6.16	第 10 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 97 名） 第 5 代会長 若松 重英（7 期）他役員選出 特別講演：茅原 郁生（6 期、防衛研究所アジア地域担当室長） ポスト鄧小平の中国
平 7.12	会員名簿第 5 号発行
平 8.6.14	第 11 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 82 名） 特別講演：佐藤 勝巳（現代コリア研究所長）緊張高まる朝鮮半島情勢
平 9.6.13	第 12 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 84 名） 第 6 代会長 藤原 利將（9 期）他役員選出 特別講演：赤石 勝（11 期、東海大学教授） 地盤に関する最近の話題
平 9.12	会員名簿第 6 号発行
平 10.6.5	第 13 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 78 名） 特別講演：池井 優（慶応義塾大学法学部教授） 野球監督に見るリーダー論

平 11.6.11	第 14 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 68 名） 第 7 代会長 洗 堯（11 期）他役員選出 特別講演：荻野 アンナ（慶応義塾大学文学部助教授）3 つの対話
平 11.12	土木会会報第 7 号発行
平 12.6.30	第 15 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 76 名） 特別講演：古屋 信明（防衛大学校建設環境工学科教授） 明石海峡大橋の技術について
平 13.6.11	第 16 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 101 名） 第 8 代会長 渡邊 元旦（14 期）他役員選出 特別講演：原 剛（防衛研究所戦史部調査員） 要塞を中心とした明治期日本の防衛構想
平 13.12	土木会会報第 8 号発行
平 14.6.14	第 17 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 73 名） 特別講演：西原 正（防衛大学校学校長）最近の国際情勢と日本の安全
平 15.6.28	第 18 回総会・懇親会開催/防衛大学校（横須賀）（参加者 95 名） 第 9 代会長 得田 憲司（15 期）他役員選出 特別講演：中谷 元（衆議院議員）任重く道遠し
平 15.12	土木会会報第 9 号発行
平 16.6.11	第 19 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 70 名） 特別講演：川口 有一郎（早稲田大学教授）金融工学者の祖国への思い
平 17.6.17	第 20 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 78 名） 第 10 代会長 中村 信悟（17 期）他役員選出 特別講演：坂本 まゆみ（航空幕僚監部 法務課 法学博士） 国際法とテロリズム
平 18.3	土木会会報第 10 号発行
平 18.6.9	第 21 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 79 名） 特別講演：岡田奈緒子（精神科医/山野美容芸術短期大学講師） 社会生活における健康とストレス
平 19.6.17	第 22 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 72 名） 第 11 代会長 大西 正俊（18 期）他役員選出 特別講演：森 勉（前 陸上幕僚長）陸上自衛隊の現状と将来の展望
平 20.1	土木会会報第 11 号発行
平 20.6.22	第 23 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 70 名） 特別講演：井上 宗迪（教授/デジタルハリウッド大学） 米国金融 愛国法 とは
平 21.6.19	第 24 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 70 名） 第 12 代会長 君塚 栄治（20 期）他役員選出 特別講演：笹 幸恵（ジャーナリスト）玉砕の島をめぐる今思うこと
平 22.12	土木会会報第 12 号発行
平 22.6.18	第 25 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 67 名） 特別講演：岡田 奈緒子（准教授/山野美容芸術短期大学） ストレスに関連する症候群
平 23.6	第 26 回総会（書面会議） 第 13 代会長 林 一也（21 期）他役員選出
平 23.12	土木会会報第 13 号発行

平 24.6.15	第 26 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 68 名） 特別講演：大石 久和（特命教授/京都大学大学院経営管理研究部） 国土と日本人-なぜわれわれは安全保障理念を欠くのか-
平 25.6.15	第 27 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 61 名） 第 14 代会長 田邊 揮司良（24 期）他役員選出 特別講演：洗 堯（元東北方面総監） アジアの軍事戦略環境と知識戦略の展望 窪田征八郎氏（カンボジア能力構築支援教員） 工兵技術学習と P C の活用
平 25.12	土木会会報第 14 号発行
平 26.6.13	第 28 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 60 名） 特別講演：吉川 肇子（慶應義塾大学） リスク・コミュニケーションとは
平 27.6.12	第 29 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 66 名） 第 14 代会長 田邊 揮司良（24 期）再選他役員選出 特別講演：小島 海（RCF 復興支援チーム（元国際協力機構職員）） 復興支援の現場から－南スーダンから陸前高田へ－
平 27.12	土木会会報第 15 号発行
平 28.6.10	第 30 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 64 名） 特別講演：泉 貴子（准教授/東北大学総災害科学国際研究所） 災害対応・復興への国際協力：国連の役割
平 29.6.16	第 31 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 66 名） 第 15 代会長 山崎 幸二（27 期）他役員選出 特別講演：溝口 郁夫（近現代史研究家） ビルマ独立を支えた野田毅参謀の南京での悲劇
平 29.12	土木会会報第 16 号発行
平 30.6.21	第 32 回総会・懇親会開催/アルカディア市ヶ谷（東京）（参加者 74 名）
令 1.6.14	第 33 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 90 名） 特別講演：國分良成（防衛大学校長） 中国をめぐる内外情勢－日米中関係を中心に
令 1.12	土木会会報第 17 号発行
令 2.6	第 34 回総会（書面会議）
令 3.6	第 35 回総会（書面会議） 第 15 代会長 鶴居 正行（31 期）他役員選出

期別だより

第3期 昨今の日米等共同訓練の報道に思う

長江 光一

北朝鮮の牽制や中国とのグレーゾーンの戦いの中で、昨今、海上自衛隊（以下海自）と米海軍の共同訓練が活発に行われ、その報道をよく目にします。その度に私は「我ら小原台っ子」（第三期生 60 周年記念文集）中の、是本信義君による「キャプテン K の半生記」と題する手記にある「太平洋の虎となる－RIMPAC80 参加」の一節（同文集 132 頁）を思い浮かべます。

彼は、昭和 54 年 4 月に海自最初の対空ミサイル装備艦で、排水量三千トンの当時としては堂々たる大型艦「あまつかぜ」の艦長に任命されました。一期生にもこのような大艦の艦長になった者は未だいなかったもので、「どや顔」が止まらなかったそうです。

そして翌年へり搭載艦「ひえい」、対潜哨戒機 P-2J8 機とともに、海自として初めての参加となる米海軍第三艦隊司令官統裁の RIMPAC80（昭和 55（1980）年のリムパック（環太平洋合同演習））に勇躍参加しました。ブルー・オレンジ両部隊による対抗演習では、同君艦長の「あまつかぜ」は攻撃側ブルー部隊の防空艦として空母「コンステレーション」の前衛を仰せつかりました。その空母を狙ってオレンジ側の原潜「サーゴ」が接近して来たのを探知し、2 回のアスロック攻撃でこれを撃沈して、同空母を救うという功績を挙げ、また、この後に行われた超音速の標的機を目標とした対空ミサイルの射撃訓練でも、全弾命中の驚異的成果を収めたそうです。これらの功績により同艦は参加艦艇中の最優秀艦に選ばれ、「太平洋の虎」の称号と、「WITH GREAT RESPECT」との賛辞入りの記念盾が授与されたそうです。

「ところが、米海軍から絶大な評価を受けたこの『あまつかぜ』の活躍が、海上自衛隊では関係者の口の端にも上がらなかったのは何故だろうと、今でも不可解に想っている」と、同君は書いています。

私はその原因は、RIMPAC80 への海自の初参加を後押しした、昭和 53（1978）年 11 月の日米安保協議委員会承認、閣議了承の「日米防衛協力のための指針」（最初のもので、「78 ガイダンス」と通称）そのものにあつたと考えます。この 78 ガイダンスは、日米安保の軍事同盟の側面を始めて文書として明示したものであり、また特に海上交通路（シーレーン）防衛の日米分担を求めるもので、当時の我が国にとっては衝撃的な内容でした。

「与野党伯仲」の国内情勢や、翌年 12 月のソ連のアフガニスタン侵攻に伴う新冷戦という国際情報の下で、国会を中心に激しい論争が起きました。そのような状況の中で、所謂禁断とされていた「海外派兵」や「集団的自衛権」の行使を連想させる RIMPAC80 の成果を口にするのは格好の国会混乱材料を提供する恐れがあり、言わば箝口令が敷かれたのではないかと、当時陸幕教育訓練部に勤務していた私の経験から愚考します。

シーレーン防衛の問題は、紆余曲折を経て中曽根内閣の「四つの基本指針」（昭和 58（1983）年。俗称「中曽根航路帯」）で一応の思想統一がなされ、海自の RIMPAC 参加はその後も継続されました。しかし、今日観るような海自艦と米海軍の空母等が併走する共同訓練の光景が大きく報道されるようになるまでには、シーレーン防衛における海自と

米海軍の共同作戦の根底にあった集団的自衛権等についての疑念を解消した、「平和安全法制」の制定（平成 27（2015）年）を待たなければなりませんでした。

私は最近、日米同盟に関する研究論文で、「RIMPAC80 での参加部隊の活躍が世界水準から高い評価を得たことで、その後の海自の発展と海上における日米防衛協力の質的拡大の第一歩となった」（要旨）として、RIMPAC80 における是本君らの活躍に高い評価を与えている記述を見付け、感銘を受けました（日米「同盟」言説の出現：日米防衛協力のための指針の影響、一九七五～一九八二年（慶応義塾大学学術情報リポジトリ））。40 年も前の同期の活躍に対し、深甚の敬意を表し、皆様に紹介させていただきます。

第 4 期 「4 期土木活躍中の 2 人」

石川 信隆

4 期土木は、全員 83 歳以上となったが、現在活躍中の 2 人を紹介する。

1 人目は、原剛君（軍事史研究家、元防衛研究所戦史部）で、最近（令和 3 年 3 月）「沖縄戦における住民問題」（錦正社刊、186 ページ）という本を出版した。長年にわたり沖縄を現地取材して、粘り強く資料収集をして、終戦前の沖縄の状況を調べ上げた貴重な本である。原君は、防大 2 年の頃から明治の元勳（西郷隆盛など）など歴史に興味があったことを覚えているが、NHK「坂の上の雲」の時代考証で一躍有名になった。その他「幕末海防史の研究」、「明治期国土防衛史」などの著書および「日本陸海軍事典」、「元帥畑俊六回顧録」、「南京戦史資料集」などの編書がある。

もう 1 人は、蛭原康治君、現在大阪防衛協会の常任理事兼事務局長で、年 4 回「まもり」という防衛意識の高揚を図る目的の機関紙を編集発行するとともに、内外で活躍する陸海空自衛隊への激励・支援活動を実施している。この大阪防衛協会は、昭和 38 年 1 月裏日本を襲った豪雪（38 豪雪という）に対し自衛隊の災害派遣活動（当時 4 期は 3 尉）に感銘を受けた初代会長の松下幸之助ら財界人が昭和 39 年 2 月に設立し、現在 57 年目を迎えている。

以上、4 期土木は 31 名中すでに 17 名（55%）が天国へ旅立ったが、現在残された者は、亡き友を偲ぶと共に、「置かれた場所」で最後まで「周囲への感謝と我が国の発展」を祈り続けたいと思う。

第 5 期 私のスマホ挑戦

山口 忠恵

止せばよかったのに私は昨秋ガラケーからスマホに乗り替えた。ドコモのお兄さんが心配そうな様子で「いつでもスマホ教室へ」と言ってくれたが迷っている間に「3 密回避」とかで教室は狭き門になってしまった。仕方ないから独修に取り組んだのだが思った以上に難しかった。困苦の末何とかしたのは電話・メール・カメラくらい・・・かな！？インターネット・地図・LINE など使いこなしたいがまだできない。結局ガラケー並みのスマホになっただけだ。今度こそスマホ教室に通ってすこしはましなスマホ使いになりたいと思う。コロナ明けが待たれる。

今回のスマホ挑戦で、私は己のアタマがかなり固いということあらためて自覚した。取説を読んで 2～3 分もすると「あれっ！何だっけ？」となるのだ。

以上

第6期 大相撲の奇跡

土屋 洋

今年前半のスポーツ界の大きな出来事は日本人初となる松山英樹選手のマスターズゴルフ大会優勝と大相撲の照富士関の大関復帰とします。私は大相撲ファンで本場所へ足を運ぶのは数回ですが、テレビ観戦は毎場所欠かさず観戦しています。最近の注目は照富士関の怪我と内臓疾患のため序二段まで陥落した後の再大関への復帰劇です。大関を経験した力士が序二段まで降格したのは相撲史上初めてであり、その力士が元の大関へ復帰出来たのはまさに奇跡に思えるのです。親方の親身な指導のもと「笑える日が来るのを信じてやってきた」と振り返る大関の気力精進には感服します。コロナ禍で気持ちが浮かぬ今、人々が心ひそかに期し語られる「V字回復」を体言してくれた大関に心より拍手を送ります。

振り返ると私の少年時代は戦後まもない娯楽も少ない時代で大相撲の巡業が訪れ、ちょん曲げ、まわし姿の力士のぶつかり合いは私にはカルチャーショックだったし、防大時代、5大隊隊舎裏に出来た新土俵に当時、日の出の勢いだった横綱初代若の花の土俵入りも思い出します。大相撲は私の大事なエンタメであり、日本人の「正々堂々」の心を体言するスポーツだと思います。

第7期 ワクチンに思うこと

佐野 英良

令和2年の7期土木会は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となりました。

5人のノーベル生理学・医学賞を輩出している日本において、どうしてワクチンの製造が出来ないのかと疑問に思っていました。それは日本におけるワクチン接種の歴史にあったのです。

1980年代、日本はワクチン接種の先進国でした。しかし、百日咳等の予防接種の副反応で国は賠償責任を問われ敗訴したため、1994年、予防接種法を改悪して、「接種義務」を「努力義務」にしてしまったのです。

このため、ワクチン接種熱や製薬会社の開発熱は冷めてしまいました。

この年の自動車事故死亡数は10,653人であったが、自動車事故を恐れて車に乗らない人はいなかったと思います。僅かな副反応に対する対策を怠りワクチン後進国にしてしまったのは残念なことです。

幸いなことに、6月1日に「ワクチン開発・生産体制強化戦略」が閣議決定されました。国はこれらの提案を今度こそ誠実に実行しなければなりません。

7期生は80才以上の高齢者になりました。ワクチン接種後1-2週間で効果が出るそうです。ワクチン接種が進展して11月上旬の土木会が開催出来ることを楽しみにしています。

第8期 「ハロー倶楽部便り」

渡邊 正之

第8期生は今年から「ハロー倶楽部」を名乗らせて頂きます。

私共はこの様なネーミングのもと、定年直後から20年以上に亘り、同伴での旅行会、明治記念会館での新年会、そして男性だけの年2回のゴルフコンペ、毎月第2火曜日の昼食

会を欠かした事はありませんでした。

特に旅行は、シンガポール2回、ハワイ、カナダ、アメリカ、アジア近辺諸国併せて9ヶ国、国内旅行（3～4泊）が12ヶ所・・・と良く巡りました。

当倶楽部の世話役（幹事）の私も、満州生まれでして第2次大戦終戦後は満州に残され、悲惨な600日を体験して帰国しましたが、75年を過ぎた今再び、世界コロナ戦争を体験しております。

皮肉にも、ハロー倶楽部の面々も今年は、各々傘寿（80才）～83才を迎えています、この2年間のブランクは大きいです。

コロナワクチン接種もほぼ全員が終わろうとしておりますので、一日も早く平常にもどり、老いの団結をもっともっと深めて行きたいと願う昨今です。

令和3年6月

第9期 木暮君からの便り

久 義重

『技術で歩んだ職務を振り返って』

50年程前に廃止された技術集団・建設群に配属されて以来、自衛隊を退職するまでの約30年間、施設・建設に関わったことは、土木専攻者として幸せでした。勿論、各地で土木の先輩、後輩に支えられた日々でした。

40年代には6年間延べ23万人が投入された塩那道建設へ参加しました。北海道から静岡までの勤務地では、建設・土木工事の現場で様々な工夫をして、技術者としての満足感がありました。この間、施工管理技士、建設業経理事務士、建設機械運転技能などの資格を取得しました。

ドーザー転落による死亡事故と遺族補償、懲戒処分と恩赦など暗い経験もしました。標高1,700mの稜線を繋ぐ「塩那スカイライン構想」が消滅し、完成した道路に植樹する廃路作業が進められたと聞き、無念の念を禁じえません。

退職後は、ゼネコンからの誘いがあり、約10年間、技術部門で勤務しました。その誘いの理由は保有資格の他に事故処理の経験が期待されたものでありました。

第10期 コロナウイルス感染症禍の10期生

松本 義弘

安井君とやっと連絡が取れました。彼は現役の時大病を患い退官後も諸々の病に加えて『死』との闘いを続けながら今日を迎え、このまま静かな余生を送りたいとの便りを受け取ったところです。コロナに負けずに頑張ってくれることを願うばかりです。

また、航空要員の『遠藤 達』君が昨年11月22日に逝去されました。同期34名のうち7人目、ご冥福をお祈りします。

コロナ禍2年目の令和3年。4月にワクチン接種が始まり、6月になりやっと軌道に乗ったようです。同期の中には、接種したくない者日本製のワクチンが承認されるまで待つ者等が居りましたが、ほとんどの者は政府の方針通り7月末までには2回目の接種を終えるとの連絡を受けました。

コロナウイルス感染症は当分の間続くと思われまますので、『塩野義製薬』等日本を代表する製薬会社の『ワクチンや治療薬』が一日も早く承認され、国内に出回ることを願うば

かりです。

第11期 令和3年を迎え思うこと

岡村 壽久

11期土木の皆様お元気の様子で何よりです。新型コロナが猛威をふるっている令和2年～3年、11期の皆様にはコロナに感染もなく安心しております。ワクチンは接種終わりましたか。ちまたでは副反応が出て痛み、だるさ、発熱があり、3～4日寝込む人もいます。幸い私は、一回目の3日目に全身がだるくなりましたが、二回目には何も出ません安心して過ごしております。ただ、外に出て、多勢で食事会や会合ができないのが残念に思います。11期生も今年度「喜寿」を迎え、長寿を祝って同期生会を行いたいところですが、コロナ禍でそれもままなりません。ご家族に祝ってもらい、益々の長寿に留意され百歳を目標に健康な毎日を過ごされるよう祈っております。

第12期 これまで・これからの12期

勝村 紀基

早世された須藤節夫君、松林秀璽君そして退職時期も過ぎてからは松井禧秀君、溝渕征夫君、酒井政和君、中村弘君が鬼籍に入られました。あらためて6名の御魂のご冥福とご親族様のご健勝をお祈り申し上げます。

現役のころから20年余にわたり隔年の懇親会を続けてきました。発起となったのは民間企業等に勤務していた数名からの要望でした。それが、隔年、5地区（北海道、関東、関西、広島、九州）持回り、在住者が幹事で可能な限り夫婦同伴という申合せとなり、毎回20名超の参加者で全国を2周しました。

2018年秋、12期卒業50周年行事に合わせて7名（+4夫人）が集まったのが最後となっています。

「2021年に最後の懇親会を開催し、その後は近況連絡等に限定する」との意見集約できましたが、思いがけないコロナの襲来で21年懇親会は延期となり開催未定です。「このままでは終われない」との心強い声が聴かれますので早い時期に開催できることと同期諸兄が日々健康であれと願っています。

第13期 チャレンジ

末包 昭彦

今年も土木13期の同期生に電話して、それぞれの話を聞くことができました。懐かしくて、ついつい長話になってしまいます。声の大きさやトーン、息遣いなどで体調の良しあしが伝わってきます。全員元気で、何よりでした。

そんな中、下田君から、TOEICの試験で795点をとったとの話を聞きだすことができました。淡々と話してくれましたが、私はただただ驚くばかりでした。受験のきっかけは新型コロナだそうです。今、彼は会社で相談役をしていますが、出社が週3日になって時間に余裕ができ、その時間を勉強にあてたそうです。彼は、海外での勤務は長かったのですが、学生の頃から英語が得意だったという記憶はありません（間違っていたらゴメン）。今回の点数まで1年近くかかったそうですが、後期高齢者の仲間入りの時期に受験して、見事に結果を出しました。その熱意と努力に改めて敬意を表するものです。ちなみに、今度は800点超えを狙っているとのことでした。チャレンジに年齢は関係ないようです。

第14期 新型コロナ感染症に思う

渡邊 元旦

昨年1月に国内感染が確認された新型コロナ感染症は、次々と大波が押し寄せていて、5月から高齢者へのワクチン接種が始まりましたが収束には時間がかかりそうです。

そのような中、私たちは月に1回ですがオンライン懇談会（飲み会！）を開催しています。

参加者は私を含めて8名で、現職時代の職種はバラバラ、退官後の住居は各地に散らばっていますが、各自好きなドリンクを傍らに、防大時代・自衛官時代の思い出から安全保障問題、更にはボケ防止の方策などを語り合い、楽しい時間を過ごしています。コロナが起きる前は考えられないことだと思っています。

コロナ禍、私たち高齢者は日常の行動が極めて制約されますが、このような新しい生活様式を取り入れるなどの努力をして元気で過ごしていきたいと思えます。

第15期 「憲法改正」

岩本 賢一

我々が小原台の学生時代後半、時折集まり議論したのは、①憲法改正（国のあり方や国防軍の地位・役割の明確化等）、②国の安全保障体制の強化（当時のソ軍の脅威対処（米軍との協同訓練の拡大や国内法の整備等）、③国連軍への参加（国際平和への貢献）、④防衛庁から国防省への改革等々であった。

しかしながら法の改正ですら簡単ではないと思っていたが、現時点では、①を除き完全ではないが、②～④は達成されている。時代の流れを感じる。今、中国等の専制主義国家と米国等の民主主義国家との対立を核として世界の構造改革が尖鋭化しはじめた。日本の安全保障体制も再構築すべき時代へと移り変わっている。台湾・尖閣有事等を含み、出来れば、情勢が激変する前に、矛盾を炙り出すコロナ禍をも利用しつつ、我々OBの利点を最大限生かし、憲法改正に向けて、更なる努力を重ねていきたいと思う。

第16期 16期の皆さんへ

青波 健

お元気ですか？東京オリンピック 2020 が行われるかどうかの時点で投稿しています。

「宇宙には国境がない」と宇宙飛行士毛利衛さんが話されたことに感銘を受けて、全国の若い人たちが聖火を宇宙に運ぼうと英知を結集していることを報道で知りました。今の若い人たちの素晴らしい発想力と実行力に敬服しております。昔「今の若い者は・・・」と叫ぶ人がおられたことを思い出します。果たしてそうでしょうか？科学分野など結果が出るのに数十年かかることもあります。しかし、将棋の藤井さん、女性棋士の仲邑さん、蚊の研究で世界的な発見をされた田上さん、一部のカブトムシは昼間も活動することを発見した柴田さん、スポーツ界でも数多。野球の神様を抜いた大谷さん、水泳界では白血病と闘いながら東京オリンピック出場権を獲得した池江さん、ボクシングではバンタム級世界王者井上さん、ゴルフではマスターズを制した松山さん、テニスでは病を告白しても東京オリンピックに意欲を表明した大坂さん等……。これからも若い人たちを応援し、その活躍に期待します。

第17期 第17期の皆さんへ

市川 菊代

第17期の皆さん、大方ご健勝のことと推察しています。コロナ感染症という世界的なパンデミック状況の中で生きることは思いもよらぬことでした。

そんな中、大野友則君が本年春の叙勲を受章しました。今までに中村信悟君と輪倉昇君も受章しています。誠におめでとうございます。外川三郎君は、現在（7月初旬）東京オリンピックの最終準備で奮闘しています。晴れやかではない状況の中でオリンピック東京大会の成功に向け頑張っている関係者や先の見えない極めて厳しい状況の中で闘っている医療関係者に感謝いたします。また、各種の災害派遣や「今そこにある危機」に備えて日夜奮闘している現役の諸官に感謝いたします。我々もまだ十分若いので、精神と肉体を少しずつ鍛えながらコロナ感染症に負けないよう頑張りましょう。

令和の時代が自衛隊にとって新しい時代となるよう祈っています。

第18期 18期の皆様へ

小山 悟

1年以上の長期に渡って、新型コロナウイルスが世界中に猛威を振るい、社会生活にも多大な制約を受けています。ワクチンの接種も進められていますが、新たな「変異株」の発生もあり、このウイルスの対処については、中々大変な気もします。また、感染についても、実際の社会生活の中で、完全にウイルスと接触しないで生活するのも大変です。5月末からは自衛隊によるワクチン接種支援が開催され、職域接種及び自治体の大規模接種も遂次進められていますので、接種の進捗が加速されるのではないかと期待されます。私も一回目の接種が終わり、二回目の接種が7月中旬に予定されています。国民の大部分の人がワクチン接種を終了し、感染の脅威のない普通の生活ができる日が早く来ることを願いたいと思います。皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

第19期 同期から一言

長峰 克己

それぞれの顔が思い浮かぶように同期全員から一言もらいました。

青木：八戸で合唱等をして元気にしています。

姉崎：ふるさと秋田で元気に過ごしております。

安彦：詩吟、麻雀等趣味三昧の毎日です。

幾田：元気にしています。

岩下：古希を迎え終活に入りつつあります。

久保：スポーツジムで体力練成しています。

黒木：コロナ以前から在宅勤務の毎日に変化なし。

児玉：バラを育てて元気にしております。

斎藤：失語症を患って21年、失語症北見で検索してみてください。

坂田(正)：相変わらず神戸市役所で働いています。

佐藤(憲)：防衛医大の病院建て替えに従事中です。

佐藤(久)：ボランティア、ジム、家庭菜園で日々エンジョイ

瀬戸山：元気にやっています。皆さんにお会いしたいですね。

傍島：悠々自適に元気になっています。
杉村(高橋)：コロナ禍、小さな旅を楽しんでいます。
角南(井出)：猪と戦いつつ家庭菜園に日々汗を流しています。
寺島：日帰り温泉の小さな旅もグッと堪えて我慢の日々です。
永木：妻の実家（水戸）で野菜作りに励んでいます。
永沼：70歳を超えて仕事を継続するのが目標です。
長峰：仕事少々とボケ防止のピアノが日課です。
藤澤：月火水木は救護施設で仕事、金土日はボランティア活動です。
用田：福岡で元気になっています。
望月：走ってます。ハーフの大会が楽しみです。
横島：仕事継続と健康維持が最大の貢献と思っています。
坂田(直)：「晴孔雨読」（孔はゴルフ『孔球』から）で楽しんでいます。
田中：日本語教師もいいものです。一喜一憂にはまっています。
渡井：元気になっています。

【鬼籍】 後藤、佐久間(2018.7 逝去)、鍋島(2020.10.11 逝去)

第21期

小野 博

新型コロナウイルスの影響により、昨年・今年とホームカミングデーは延期から中止となってしまいました。久しぶりに多くの同期の皆様と楽しい機会をもつことができなくなってしまい、非常に残念に思っています。そこで、古稀を迎える3年後に同期会を実施したいと考えています。次回の同期会につきまして何かご要望等ありましたらご連絡ください。

第22期 「同期土木会について」

厚芝 清

2020年度に5年ぶりの再会を目論みましたがコロナ禍のため約2年が経過しても先読みができない状況に困惑しています。

今回の名簿(身上)確認においても最大関心事項はコロナワクチン接種1点でした。兎にも角にも同期招集の第一条件は、コロナワクチンの(年?)2回接種と特効治療薬の一般普及ではないでしょうか？

かくなる上は、何とも味気ないオンライン同期会？

テーマは、前回提案を拡充し、大変革している極東アジア情勢下における国家防衛の在り方、特に緊急事態発生時における政府判断(開戦決心)の遅れを挽回して如何に国土回復を成すかの方策、今後の人生を如何に楽しみながら意義あるものにしていくかの方法論そして世代交代の進捗状況など、多岐にわたる論点に結論のでないまま大いに語り合いたいと思います。

なお、招集要領に関しまして、実行可能な改革的なご意見提供の方、よろしく願います。

私は34年前、31歳を目の前にして事情あって海上自衛隊を退官しました。退官後は縁あって建設業やビル管理業などの職を得ることができ、なんとかこうやって今も現役で働いております。辞めてからは海上自衛隊幹候30期の連中と機会を捉えて交流しておりましたが、やはり皆が停年を迎えていく中で、会う機会もめっきり少なくなりました。そうした中で防大23期土木の皆とは香月君の積極的な働きかけのおかげで、長い間懇親を深めることができいております。このコロナ禍を乗り切ってまた従来のように年に数回の懇親会を楽しみにしております。

私事ですが、昨年3月と12月に父と母が続け様に他界し長男である私は東京から佐賀の実家へ往復を繰り返すこととなりました。

私も65歳となり父母の寿命を受けついでいたとしてもあと25年です。何かやり残したことはないか、本当にやりたいことは何であるのか、自問自答を繰り返す日々ですが明確な答えを見出すことなく流されていく生活です。

私が生きている間に日本国が国防軍を持つあたり前の国になることを願いつつペンを置きたいと思います。

同期の皆さん、名簿確認の際にはご協力いただきありがとうございました。昨年からのコロナ禍の影響等の近況を伺うことができましたので、何名かの方について紹介します。

浅野君：大学の事務長としてLive型双方向オンライン授業の導入、職域接種の検討等で忙しい日々を送っています。

河村君：出張がなくなり、在宅勤務と出勤の繰り返しです。

田邊君：コロナ禍で部隊訪問ができず、情報収集がうまくできずOBの役割低下です。

高橋君：コロナ禍で自宅勤務がほとんどですが、元気にしています。

今までに経験したことがないこのような状況は、「たちどまって考える」（著者：ヤマザキマリ）で書かれているように自分や社会と向き合う機会を私たちに与えてくれているのではないのでしょうか。

さて、11月に開催している恒例の同期会について今年の幹事の長坂君から今回は是非実施したいとの熱いメッセージが届きました。いろいろな思いを持ち寄って皆が集まれるような状況になっていることを願うばかりです。

今年も引き続き幹事として皆さんと連絡できる機会を得ました。御協力ありがとうございました。

昨年からずっとコロナ禍でますます情報過疎状態です。

会社は都内にあるため、出勤率抑制のため出勤回数も減少したため、社内においても話をする機会がなく、近県の人にもなかなか会えなくなり、一刻も早くワクチン等の効果により、以前の生活に戻れることを期待しているところです。

今後とも、懇親会の提案など、企画要望がありましたら、遠慮なく連絡してください。
また、来年、お話し出来ることを楽しみにしております。

第27期 ひやおろし

大西 延昌

世界的なコロナ対策の中、最近、外国に出張し外国で医学観察のため、私は1か月の隔離を受けました。部屋から一步も出られず、テレビは外国語、当初はVPN設定を知らなかったため、YouTube含め、日本の動画等が見られず、唯一の会話は、SNSでの職場の同僚と家族のテキストメッセージでした。趣味のイラストを描いたり、一日20歩で歩き回れる部屋を1万歩歩いたりして過ごしました。自宅に籠るとは全く違う生活です。話したくても話せない、まるで禁固刑の状態です。唯一ドアの横に置いた朝昼晩の弁当をとるためドアを開け、対面の部屋の知らない日本人と目が合った時は、何とも言えない親近感を感じました。三密を避け、人と接触できない今、この名簿でつながりを持ちたいと思います。

第28期 このごろ（その10）

林 恭之

還暦を迎えたこのごろです。12年前の期別だよりに富士駐屯地で勤務しており、年男に富士登山をしたことを書きました。次の年男は還暦だなど漠然と考えていた歳になりました。コロナの影響で世の中の景色が様変わりし、しばらく会えていませんが、まだまだ玉手箱を開けないようにしたいものです。東京オリンピック・パラリンピックの開催に感染拡大の懸念から異論もありますが、自衛隊がワクチンの大規模接種会場の運営をするなど、早く状況が落ち着き、以前のように同期会ができるようになることを期待するばかりです。引続き土木会名簿とは別に連絡のため、携帯電話番号・メールアドレスを把握していますので、ご協力をお願いします。変更の際は、ご一報いただくと大変助かります。還暦は厄年でもあるそうなので、くれぐれもご自愛下さい。それでは同期の皆様、ご家族のご多幸を祈念します。

第29期 近況のご連絡

星川 辰雄

今年も名簿確認作業を完了しました。連絡には、すぐにレスポンスをいただくことができました。すなわち、新型コロナへの感染による入院者がいない、ということですよね。まずは、何よりです。

昨年12月、増子君が自衛隊を退職され、とうとう29期土木工学専攻者全員が自衛隊を卒業しました。定年退職（勇退を含む）された方においては、再就職して間もない時期に、コロナ禍のため、仕事のやり方が大きく変化し、やや戸惑っている人も多いと思います。私もその1人です。

一方、訳あって早期に自衛隊を退職し、民間でご活躍されている同期も多くいます。鈴木君からも、「皆、勇退したのだから、これからも仲良く支え合いたいものです」とのコメントをいただきました。まずは、皆さんが集まったの「情報共有班会の開催」ですね。また連絡しますので、よろしくをお願いします。

第30期

米津 浩幸

30期の皆さんいかがお過ごしでしょうか。一年は早いもので、名簿整理の時期となりました。今年は、防衛大学校を卒業（1986年3月）して約35年、自衛官として勤務してきました30期土木科の最後の同期が、令和3年3月退職しました。自衛隊の部隊等の勤務先を確認できるのは、再任用の2名となりました。

実は、昨年（令和2年）夏、同期に名簿確認のため、住所連絡先をまとめた一覧を封書で送りました。

同期全員からメール返信があり、かつ、いろいろな反応がありました。防大卒業当初から、民間に出ている者、中央省庁、地方公務で勤務している者、再任用として引き続き自衛隊で勤務している者、そして大多数の者が、自衛隊を卒業して第2の職場で奮闘していました。一致したのは、「機会を作って一度会いたいね。」ということでした。私の任務が決まりました。防大30期9班（土木）の同期会に向けて、もう一踏ん張りしたいと思います。

第31期

伊藤 一雄

大半が定年し、数少ない現役自衛官の鶴居君の近況です。（幹事）

鶴居 正行

57歳の誕生日を迎えて、家内から「この歳まで自衛隊にいられてありがたいね。」と言われた。本当にありがたいことであると思う。それでも、一年後には迎えるであろう定年に向かって準備を本格化しなければと、アレコレと悩んでいる、保険の書き換え、家のリホーム等々、考え出したらキリがない。そんな準備の一つにOB組織への貢献についても含まれるが、その数の多さにビックリしつつ、「これだけ多くの先輩方に尽力頂いていたのか！」と、不勉強を今更ながらに悔いている次第です。私個人としてできる貢献は限られています。特性を生かした貢献は何ができるのかを考えさせられる今日この頃です。

第32期

藤原 修

最初に、北川君が逝去されました。

ご生前のご功績を偲ぶとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

32期9班一同

32期9班の皆さん、新型コロナが流行していますがいかがお過ごしですか

早いもので卒業以来33年が経過しました。私は縁あって、現在、横須賀市の武山駐屯地に勤務しています。そこで、新型コロナ流行の小康状態を見計らって、土木実験棟に懐かしい思い出を見に行きました。



第35期 近況連絡

金子 操

皆さん、お元気でしょうか。令和2年の1月頃から蔓延し始めた新型コロナウイルスの影響で不自由を強いられている方もいると思います。それがなければ9班の定例会も行なうことが出来たかも知れませんが、今はワクチンや治療薬が行き渡るまで定例会の延期を考えています。

また、数名の方から本人や家族が大病を患ったとのお話をうかがいました。それぞれ年齢を重ねてきているので、健康にはくれぐれも気をつけてお過ごし下さい。

第38期 38期の皆様、お久しぶりです。お元気でしょうか。

黒木 勇人

早いもので大学を卒業し四半世紀が過ぎました。私の近況はというと、気持ちは昔のまま、体はそれなりにガタがきていますが、たまに親友?康人くんからの連絡を活力に変えがんばっています。また、令和元年の8月から京都で初めての単身赴任生活をしており、昔の漫画を読んだり、料理をしたりと自分時間を満喫しています。

その中で衝撃的な気付きがあったので紹介します。なんと、昔は寸暇を惜しんでレベルアップに勤しんだゲームが、思ったようにコントローラーは使いこなせず、クリアしようとするも情熱が足りず瞬く間に挫折してしまったのです。皆さんも同じように「昔はこうだったけど…」と思うこともあると思いますが、人生100年、まだまだこれから、ぜひまた一緒に集まり昔話に花を咲かせ杯を交わし、みんなで愚痴を言い合い、笑いあいスッキリして仕事に向かいたいですね。当然、コロナが収まってからですが。

38期の皆さん、嫌がらず、面倒くさがらず、機会を見つけて集まりましょう。その時は康人くん幹事よろしく。

第42期 「近況報告」

白石 博文

今年で卒業後23年目となります。名簿更新のため、同期の皆さんにメール主体で連絡を取りますが、返信の書きぶりから"その人らしさ"が垣間見え、変わらない人柄に嬉しさを感じます。新型コロナが落ち着くのにしばらくかかりますが、25周年となる再来年には98ドボクで同期会(東京)を企画したいと考えてます。皆さん、身体には気をつけて！

第43期 「近況報告」

天内 明弘

43期の皆さん、ご無沙汰しています。コロナ禍も1年半以上が経ち、これまで当たり前のようにやっていたことができないもどかしさがある一方、新しい生活様式スタイルが慣れつつもあります。毎年の土木会の名簿の更新作業を実施するたびに、皆さんとの良き思い出を回想しますが、早く、マスクなく、3密を気にすることなく皆さんと再会できることを願っています。

それぞれ軍種も任地も役職も、そして職業も異なる方もおりますが、引き続き、防大土木で学んだ精神をもって活躍しましょう！

44期土木の皆さん、ご無沙汰しています。

防大卒業後、早21年となりましたが、各幕、各部隊、各機関でそれぞれの業務に頑張っておられることと思います。

キャリアパスを重ねる毎に、業務の幅や深さが広がり、日々業務に忙殺されておられることと思います。それと同時に、年齢45歳を目前にしていることから、いかに身体の衰えを低限するかに留意が必要と痛切しています。時間のある時には、少しリフレッシュしてランニングや柔軟体操等を実施していきましょう。なかなか継続することは難しいですが、少しでも元気な身体を継続できるように心掛けることが大切なと思っています。

成人病検査で注意を受けている同期も多くなってくると思いますので、日々の食事にも気を付けて健康の維持に努めていきましょう。

2019年末からの新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、コロナ禍の新たな生活様式が社会全体に普及し始めてから1年を超え、延期された東京オリンピック・パラリンピックがまもなく始まろうとしています。そういった中、45期の同期生の近況ですが、タイの留学生のウィトゥンが、陸軍大佐として昨年10月、在日タイ大使館の陸軍武官として着任しました。国籍は違いますが、同じ釜の飯を食った仲間と、安全保障という分野で我が国において勤務できることに、防大の特別な価値を感じる次第です。

早くコロナ禍が収束し、ウィトゥン含め、皆で集まりたいものです。

46期の皆様、お元気ですか？コロナ禍という過去にない大変な状況ですが、それぞれの役割をしっかりと果されていると思います。現在、私は陸上自衛隊武器学校の戦術教官として勤務しておりますが、普通科職種の私にとって他の職種で教育するという特異な環境なため、防大出身の幹部学生に教育を実施する際、必ず学科を聞くようにしています。相手が建設環境工学科出身であれば、教場が新しくなった事や教官の方々の方々のことで話が咲き繋がりが生まれます。小さなことではありますが、学科の絆に感謝しております。

コロナは人と人の繋がりを分断しようとしています。これからどんどん個人主義が加速する世の中ですが、絆の大切さを再確認して生きていきたいものです。

昔のようになかなか無理のきかない身体となりましたが、身体を労りながら勤務していきましょう。

卒業して約20年が経過し、それぞれの道で様々な経験を積んで、陸上自衛隊でいえば指揮官、部隊の主任幕僚、班長職等要職に就くような年頃となりました。長いようであるという間に感じた時間の中で、一緒に勤務したりよく会う者もいれば、ここ数年は卒業(退職)以来久しぶりの同期との再会、また、陸自施設科、さらには施設整備を担う部署

での勤務から、当時お世話になった先生方と一緒にする機会も得ることができました。コロナ禍でもあり、宴会もここ1年なく退屈ながらも健全な生活をすごしているところではありますが、40歳を超えて昔ほど無理ができない体になってきていると思うので、健康には特に気を付けながら引き続きそれぞれの道で頑張っていきたいと思います。

第49期 健康第一

鷲原 巖

49期の皆さん、いつも土木会名簿の内容確認の際には、ご協力ありがとうございます。今年も皆さんと連絡を取り合えることができ大変励みになりました。

さて、早いもので、小原台を卒業して16年、私も今年で40歳。正真正銘中年の仲間入りをします。40歳といえば前厄、本厄にあるとされる様々な身体の変化の兆しが現れる歳と言われていますが、確かに高血圧、肥満、加齢臭等々顕著に現れています。一方で、仕事においては働き盛り？家庭においては良き親、夫であろうとして、住宅ローンもあるので健康でいる必要があります。人生100年時代を迎えますが、まだ人生の半分も生きていないので、中年であり、これまでのようにはいかないということを自覚する必要があります。

皆さんも同じ様な状況だと勝手に思っていますが、これからも土木会名簿の更新がある限り連絡すると思いますので、お互い健康第一でやっていきましょう。

第55期 10年！！幹事

澤田 京介

10年！！自衛官となって10年が経過した！！早い、早すぎる（汗）！！おそらく55期土木会員は、みんな同じ気持ちであろう。この間経験した努力と苦労は間違いなくこれからの自衛官人生の宝物である。期の幹事として、毎回この仕事をやっていて、同期の職務を確認してみると、10年の経過をひしひしと感じる。部隊長、上級部隊担当、防大教官・幹候区隊長、学生・研究員等、任官当初からは考えられないポストでみんな活躍しているのだな、と感じる。この感覚はおそらく、土木会幹事しか味わうことができない特権だと思う。また、土木会員情報更新のため、同期への連絡も幹事としての重要な仕事であり、久しぶりの同期との語らいができる、これまた幹事の特権であり、嬉しい限りである。

これからは、中堅幹部の中核として、自衛隊を牽引していく我々ですが、その原点である防大生活、土木民としての初心を常に秘めて自衛隊の精強化に引き続き貢献しようではありませんか。この10年を節目として、55期土木会の益々の活躍を祈念しております。

第56期 卒業から10年を迎え

岩根 利浩

56期土木会幹事の岩根です。早いもので、56期生が防衛大を卒業してから10年が経とうとしています。私は今、防衛装備庁で勤務をしているのですが、自身の10年を振り返ってみますと、研究科や装備品の研究開発の場面で、多くの土木の諸先輩方からご指導やご支援を頂いて参りました。「あの高官の方も土木出身なのか・・・。」と、防衛省という組織を少しずつ知るにつれ、土木出身の先輩方の偉大さを感じている次第であります。

さて、学生当時、悪童として名を馳せていた56期の皆さまは、変わらず元気になっていますでしょうか。国防の第一線に身を置き続けている方、退職して企業等で働いている方、

はたまた海を渡ったカンボジアで活躍されている方、それぞれの道で奮闘を続けているという話が聞こえていきます。

10年という節目の年も踏まえ近々またお会いしたいですね。ぜひまた集まりましょう。

第58期 「58期土木民に寄せて」

永松 秀章

皆様、いかがお過ごしでしょうか。58期幹事の永松と申します。

防大を卒業し大村の第16普通科連隊で勤務する中、建設環境工学科での学びの記憶が少しずつ薄まってしまいましたが（別府先生、申し訳ありません。）、先日の熱海で発生した土砂災害により、恥ずかしながら土木という学問の重要性を再認識いたしました。

土木工学は社会基盤を整備し国民の生活を守るための学問であり、自衛官の役割と通ずるものが多々あります。直接的に土木工学に携わることは少ないと思いますが、我々58期も土木の精神を忘れずに、各々の職務に邁進していきましょう。

最後に私たちが防大の学生だった頃には考えられないような厳しい時代になってしまいました。コロナ禍が終わり、皆と再会できる日を心待ちにしております。

第59期 土木会会報作成

嶋川 理

今年、理工学研究科後期課程に所属している縁もあり土木会の渉外に就任しました。今まで期幹事として名簿更新等行ってきましたが、今回は会報の編纂にも関わることができうれしい限りです。今回の会報はコロナ禍の関係上、土木会ニュースの内容が土木会懇親会ではなくは近年発生した土砂災害の現地調査結果となる予定です。また、記事内では現地調査で撮った写真をカメラのGPS機能を使って地図上にプロットしたものを、QRコードで添付予定です。読んでいただければ幸いです。

第60期 長生きするコツ

和泉 雄也

何かのマンガで長生きするコツは、バカやってた時をわすれないことって書いていました。立場や階級上、どんどん難しくなっていくと思いますが、忘れないようにしましょう。そして、早くコロナが治まりますように。

※ 写真は5年前のものです。



第63期 防大での日々

井上 啓史郎

皆さん、ご無沙汰しています。防衛大学校を卒業してから早3年が経ちました。部隊での勤務には慣れましたでしょうか？私は4月から7月までの間、自衛官候補生の区隊長として勤務しています。当初はわからない事だらけでしたが、任官してから初めて指導者として勤務していく中で、教育というのがどの様にして成り立っているのか、教育の裏側を知る事ができ、身になる日々を過ごしています。さて、期幹事として、名簿の修正をする中で皆さんの名前を見ると、防大時代を思い出します。パレード前の士気上げ、テストに向けての勉強、夜遅くまで行った卒研。当時は意識していませんでしたが、今思い返すと辛くも楽しい日々でした。官舎での一人暮らしにも大分慣れましたが、ふと寂しくなる時もあり、同期の大切さ、心強さを痛感します。

コロナの影響で何かと、制約の多い日々ではありますが、それぞれの職場でこれからも日々の業務に邁進していきましょう！

第65期 「65期のみんなへ」

井元 太二

皆さん、お元気でしょうか。

わたしはとても元気で、相変わらず大好きな競歩を続けています。また、最近土木が恋しくなって、土木系の本を読むようになりました。土木の素晴らしさを再確認しています。

さて、コロナ禍が長引いていますが、収束したら飲みに行きたいものです。まだ懐かしがるほど時間は経っていないと思っていましたが、書いているうちに懐かしくなってきました。皆さんとまた会うのが楽しみです。

最後に、最近の若者言葉で締めさせていただきます。

土木しか勝たん（土木最高）

技官研修生 「名簿調査を通じた建設技官の繋がり」

深和 岳人

土木会事務局から年に1回の名簿調査の依頼を受け、業務に影響の無いよう、テレワークや昼休み等の時間を用い、職場からの一斉メールを発信する形で行いました。言ってしまうと「雑用作業」に過ぎない本調査ですが、労いの言葉を下さる方、近況を報告して下さる方もいて、建設技官の「繋がり」を感じることができる良い機会を頂いていると前向きに捉えています。

決して人数の多くない建設技官組織において、また、諸般の事情により本研修を経験できていない職員もいる中において、少なくとも今後の研修生にとって有益なものとなるよう、この繋がりには継続してもらいたいと考えています。

なお、個人情報の取り扱いが何かと面倒になる時勢において、今後の調査が楽になるように可能な限りシンプルに整理しましたので、次回調査においては、後輩に託したいと思えます。

決算報告

令和2年度および令和3年度防衛大学校土木会総会におきまして、令和元年度および令和2年度の決算報告がなされ下記のとおり承認されました。

1 令和元年度

収入内訳		支出内訳	
終身会費	330,000 円	通信連絡費	370,738 円
寄付金	40,000 円	会報作成・発送費	47,077 円
簡易名簿代	13,000 円	名簿更新費	66,000 円
		事務消耗品	11,172 円
		表彰品	11,550 円
		総会費用	39,114 円
収入小計	383,000 円	支出小計	546,191 円
平成 30 年度から繰越	2,722,316 円	令和 2 年度へ繰越	2,559,125 円
合計	3,105,316 円	合計	3,105,316 円

2 令和 2 年度

収入内訳		支出内訳	
終身会費	330,000 円	通信連絡費	36,169 円
寄付金	5,000 円	名簿更新費	101,920 円
簡易名簿代	3,000 円	事務消耗品	710 円
		表彰品	18,425 円
		書面総会費	5,292 円
収入小計	338,000 円	支出小計	162,516 円
令和元年度から繰越	2,559,125 円	令和 3 年度へ繰越	2,734,609 円
合計	2,897,125 円	合計	2,897,125 円

防衛大学校土木会会則

昭和 61 年 12 月 6 日制定

昭和 63 年 12 月 2 日改正

平成 25 年 12 月 13 日改正

令和 元年 6 月 14 日改正

第 1 章 総則

(名称)

第 1 条 本会を、防衛大学校土木会と称する。

(事務局)

第 2 条 事務局は、防衛大学校建設環境工学科内におく。

第 2 章 目的および事業

(目的)

第 3 条 本会は、会員相互の親睦を深め会員の社会的活動の向上を図ることを目的とする。

(事業および活動)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業および活動を行う。

- 1 会員相互の親睦に関する事業
- 2 会員名簿の管理
- 3 その他前条の目的を達成するため必要と認める事業

第 3 章 会員

(種別)

第 5 条 本会の会員は、次の 2 種類とする。

- 1 正会員 防衛大学校建設環境工学科（旧土木工学専攻、本科、研究科）卒業生および在学生研修生、土木工学教室の現旧教職員
- 2 賛助会員 入会を希望し役員会で承認された者

(会費の納入義務)

第 6 条 会員は、別に定める会費を支払うものとする。

第 4 章 役員

(種別)

第 7 条 本会に、次の役員を置く。

- 1 会長
- 2 副会長
- 3 理事
- 4 会計監事

5 期生会等幹事

(員数および選任方法)

第8条 前条の役員は、次の方法で選任する。

- 1 会長 正会員の中から総会で1名を選任する。
- 2 副会長 正会員の中から総会で2名を選任する。
- 3 理事 正会員の中から会長が若干名を指名する。
- 4 会計監事 正会員の中から総会で1名を選任する。
- 5 期生会等幹事 期生会等から各1名を会長が指名する。

(職務)

第9条 役員の職務は次の通り定める。

- 1 会長は、本会を代表して会務を統轄し、会の業務の運営に任ずる。
- 2 副会長は、会長を補佐して会の運営にあたり、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 理事は、会長、副会長を補佐して会の業務の運営に当たる。
- 4 会計監事は、全会員に代わり会の財務を随時監査し、総会において監査報告を行なう。
- 5 期生会等幹事は、各期生会等の代表として本会との連絡にあたり、期生会員等の移動に関して年1回(8月末)事務局に報告するとともに、必要に応じて会長の諮問に応える。

(任期)

第10条 会長、副会長、理事、会計監事の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 期生会等の幹事の任期は2年とし、再任および重任を妨げない。

第5章 役員会

(構成)

第11条 役員会は、会長、副会長、理事をもって構成する。

- 2 会計監事は役員会に出席することができる。

(議決)

第12条 役員会の議決は、役員の過半数をもってこれを決するものとする。

(開催)

第13条 役員会は、原則として年1回開催する。

(権能)

第14条 役員会は、会則改正、予算および決算、会費に関する事項ならび事務局に検討を命ずべき事項を議決する。

第6章 事務局

(構成)

第 15 条 事務局長は、会長が防衛大学校教職員である会員の中から選任する。

2 事務局員は、事務局長が会員の中から指名する。

(権能)

第 16 条 事務局は、会長の命を受け次の事務を行う。

- 1 会員名簿の作成
- 2 総会開催に関する事項
- 3 会計業務に関する事項
- 4 役員会から検討を命ぜられた事項
- 5 その他会長から命ぜられた事項

第 7 章 総会

(開催)

第 17 条 総会は、原則として年 1 回開催するものとし、会長が招集する。

2 総会の議長は、会長がこれにあたる。

(承認事項)

第 18 条 次の事項は、これを総会に提出しその承認を受けるものとする。

- (1) 会則の改正
 - (2) 会費に関する事項
 - (3) 予算および決算
 - (4) 事業計画および報告
- 2 1 項の承認は、総会出席者の過半数をもってこれを決する。
- 3 役員会から総会までの間、必要に応じ暫定予算および暫定事業計画を設ける。

第 8 章 会計

(経費)

第 19 条 本会の経費は、会費および寄付金その他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第 20 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

付則：1 本会則は、昭和 63 年 12 月 2 日から施行する。

2 会費は、終身会費制とし、その額を 10,000 円とする。

役員等名簿 (令和3年8月現在)

役員

会 長	鵜居 正行 (31期)					
副 会 長	小林 弘樹 (34期)			橋爪 良友 (34期)		
会計監事	宮田 良道 (51期)					
理 事	佐野 博昭 (27期)			多田 毅 (教官)		
	山根 茂樹 (研究科35期)			深和 岳人 (技官)		
	別府 万寿博 (36期)					
期幹事	1期 磯谷 幸三	23期 香月 智	45期 辻 一	2期 志方 俊之	24期 森 茂	46期 桜 良太
	3期 長江 光一	25期 大内 元	47期 大久保 一徳	4期 石川 信隆	26期 辻本 雅洋	48期 日高健太郎
	5期 山口 忠恵	27期 大西 延昌	49期 鷺原 敦	6期 土屋 洋	28期 林 恭之	50期 山内 哲也
	7期 佐野 英良	29期 星川 辰雄	51期 矢野 貴之	8期 渡邊 正之	30期 米津 浩幸	52期 小谷 稔
	9期 久 義重	31期 伊藤 一雄	53期 岩橋 宏樹	10期 松本 義弘	32期 藤原 修	54期 高村 真史
	11期 岡村 壽久	33期 濱平 信一	55期 澤田 京介	12期 勝村 紀基	34期 松井 正伸	56期 岩根 利浩
	13期 末包 昭彦	35期 金子 操	57期 小原 史稔	14期 渡邊 元旦	36期 大西 健史	58期 永松 秀章
	15期 岩本 賢一	37期 松澤 吉広	59期 嶋川 理	16期 青波 健	38期 黒木 勇人	60期 和泉 雄也
	17期 市川 菊代	39期 黒沼 孝治	61期 福井 智大	18期 小山 悟	40期 藤田 宗徳	62期 渡邊 武蔵
	19期 長峰 克己	41期 下山 一貴	63期 泉野目 熙	20期 西村 智聡	42期 白石 博文	64期 井口 陸
	21期 小野 博	43期 天内 明弘	65期 井元 太二	22期 厚芝 清	44期 坊原 尚記	

事務局

事務局長	市野 宏嘉 (46期)	
企画幹事	堀口 俊行 (50期)	
渉 外	嶋川 理 (59期)	
会 計	森 広毅 (62期)	
事務局員	水落 信恵 (事務) 小松 喜治 (57期)	
	濱田 匠李 (57期) 佐伯 佑真 (59期)	
	高倉 太希 (61期) 山内 稔也 (61期)	
	ポーンチャイ ソイシー (61期) 渡邊 大貴 (61期)	
	福井 智大 (61期) 小泉 香那子 (62期)	

《 編集後記 》

- 防衛大学校土木会会報第 18 号を発行いたします。期別便りをお寄せくださった方々、会員名簿記載内容の修正へのご助力をいただきました期幹事をはじめ会員の皆様に深く感謝申し上げます。
- 前号から会の運営資金が乏しくなっている事情もございまして、土木会会報の発行を、冊子の印刷からホームページ上での掲載に変更させていただきました。お気づきの点がありましたら土木会事務局までご一報ください。

(編集子)

事務局長	市野	宏嘉
企画幹事	堀口	俊行
渉外	嶋川	理
会計	森	広毅
事務	水落	信恵



Civil Engineering